HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道歯学会の今後を考える
Author(s)	横山, 敦郎
Citation	北海道歯学雑誌, 35(1), 1-1
Issue Date	2014-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57058
Type	other
File Information	35-01-1kantougen.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP



北海道歯学会の今後を考える

北海道歯学会　会長　横　山　敦　郎

本年度より北海道歯学会会長に就任いたしました．宜しくお願い申し上げます．

学位申請者としての北海道歯学会秋季学術大会での口演発表と北海道歯学雑誌への学位論文の投稿が私の北海道歯学会会員としての活動の始まりだった．歯学会秋季学術大会での発表が1987年12月，学位論文は北海道歯学雑誌10巻（1990年）に掲載された．25年近くたった今でも色褪せてしまった論文の別刷りが手元に何部か残っている．大学院重点化のずっと前で，同期の大学院生は10名程度であったと記憶している．私の同期の大学院生の多くは，それぞれ所属している臨床系学会の学会誌や歯科基礎医学会誌に学位論文を投稿したが，私は，ご指導いただいた先生の勧めもあり北海道歯学雑誌に投稿し，掲載された．34ページ，付図55，参考文献78編という現在では考えられないボリュームの論文であった．投稿時には，さほど疑問に思っていなかったことを思うと，当時は学位論文としては当たり前であったのかもしれない．ただ，北海道歯学会誌に学位論文を発表する者は少なく，その頃の北海道歯学会誌は，Ｂ５版で薄い雑誌であったことを覚えている．その後，学位申請時に論文が査読付雑誌に受理されていることが求められるようになり，北海道歯学会誌はページ数も増え，1996年からはＢ５版からＡ４版となった．しかし，ここ数年状況が若干変わり，ページ数は減少している．

さて，北海道歯学会とはどのような学会であるのか？設立時の状況と現在までの歴史は，平成23年と25年の本誌巻頭言において鈴木前会長が詳細に述べられている．北海道歯学会の目的は，会則第２章第３条に「本会の目的は，歯学の進歩，発展に寄与し，あわせて会員相互の親睦を図ることを目的とする」とあり，かなり漠然としている．これは，北大歯学研究科・歯学部の教職員，大学院生はもちろん，すべての歯科関係者を対象にし，基礎と臨床のすべての歯科医学に関連する領域を網羅することを考えた場合やむをえないものであろう．北海道歯学会設立当時の会員のほとんどは北大歯学部関係者であったものと考えられ，北大歯学部関係者の研究発表の場であり，少数ではあるが論文掲載の場であったことは容易に推測される．現在においても，秋季学術大会の演題のほとんどは北大歯学研究科における学位申請者によるものであり，春季総会学術大会は歯学研究科のFD講演会を兼ねた特別講演と歯学会賞受賞講演が主な内容で，演題募集はされているものの，いわゆる一般演題は少ない．例会については，これまでは，新任の教授，准教授や海外留学者の講演が主であったが，最近は，大学院歯学研究セミナーとして開催していた学外研究者の講演を例会として併催できるよう予算措置をしたため，例会の開催が増えている．このような現状を考えると，会則第３条に明確に記載されてはいないものの，「北海道大学歯学研究科・歯学部における歯学の進歩，発展に寄与し，あわせて会員相互の親睦を図ること」が北海道歯学会の「目的」であるとすれば，十分に達せられていると思われる．

私は，教授就任直後に，北海道歯学会の理事となり，約９年間学会運営に参画してきた．庶務理事をしばらく務めていたこともあり，基本的には過去の学会の活動様式を踏襲してきた．しかし，他の学会で理事や評議員として活動することにより，北海道歯学会と他の学会の組織構成の違いを感じるようになった．現在，北海道歯学会には，庶務，編集，集会，会計についての理事が配置されているが，他の学会では最も重要とされる学術担当理事と学術委員会が設けられていない．現状では，集会理事が，北海道歯学会の演題募集やプログラム編成を担当し，いわゆる学術担当であり，理事会自体が学術委員会として機能しているのかもしれない．ある意味，学内学会としてやむをえないこともあるかもしれない．しかし，学外を含めて理事，評議員および一般の会員による学術委員会を組織し，学術大会のあり方について，さらには北海道歯学雑誌のあり方についても考える時期になったのではなかろうか？現在，北海道歯学会においては，わずかではあるが会員が減少していることが問題になりつつある．大学院修了や退職などで北大歯学研究科を離れた会員を含めて北大歯学研究科・歯学部以外の会員に対しアピールをすることが，学会の今後を考える上で重要な課題であり，北海道歯学会全体として考えていかなければならないことである．北海道歯学会が真に魅力ある学会であるために，機関誌である北海道歯学会誌を含めて北海道歯学会を大学院生の学位発表の場としてだけではなく，会員の研究および臨床の成果発表，さらに北海道における最新の歯科医学に関する情報発信の拠点としていきたい．

３年後には，北海道大学歯学部は創立50周年を迎え，北海道歯学会においても歯学部創立50年を記念してシンポジウムや講演会を開催することを考えている．

北海道歯学会創設以来35年が経過した．是非，会員の皆様のご意見を戴き，新たな北海道歯学会のありかたを考えていきたい．